

「イスラーム教に則った世界帝国」の繁栄



8世紀、ウマイヤ朝を破りアッバース朝が成立。国際商業を発達させ、イスラーム教の理念に則った多民族・多文化の「世界帝国」を樹立する。



バグダッド遷都 762年
アッバース朝第2代カリフのマンスールが、三重の城壁に囲まれた円形都市バグダッドを建設し、首都をサマラから遷した。

サーマン朝 874~999年
中央アジアおよびイラン東部を支配したイラン系王朝。首都ブハラはイラン=イスラーム文化の中心となり、イブン=シーナーなどの知識人を輩出した。

タラス河畔の戦い 751年
アッバース朝が唐を破った戦い。このとき捕虜となった中国兵士がイスラーム圏に製紙法を伝えた。

ブワイフ朝 932~1062年
イラン西北部で建国したシーア派王朝。946年、バグダッドに入城し、アッバース朝より実権を奪うが、カリフの権威は認める。

ザンジュの乱 869~883年
アリーの子孫と称するアラブ貴族が、黒人奴隷であるザンジュらを組織して、アッバース朝に対して起こした反乱。

イスラム帝国 (アッバース朝) 750~1258年
アッバースがウマイヤ朝を倒して成立。10世紀半ば、ブワイフ朝に実権を奪われて以後は、宗教上の権威を維持するのみとなった。

アッバース朝でイスラーム教の理念が実現

750年、イスラーム教の開祖ムハンマドの叔父の子孫である、アッバースがウマイヤ朝を倒し、アッバース朝が成立する(アッバース朝革命)。アッバース朝は、ウマイヤ朝時代の支配階層であったアラブ人の特権を廃止し、改宗した異民族にも課せられていたジズヤ(人頭税)を異教徒のみとして、すべてのイスラーム教徒を平等に扱った。ここにおいて、神(アッラー)の下での平等を説くイスラーム本来の統治理念が実現し、真の意味でのイスラーム帝国が成立することとなった。

『アラビアン・ナイト』に描かれたイスラーム帝国の最盛期

アッバース朝は、8世紀末~9世紀初頭のハールーン・アッラシードの時代に最盛期を迎える。有名な『アラビアン・ナイト』は、この時代を舞台にした話が多く、イスラーム商人がアジアやヨーロッパ、アフリカの各地をめぐってさかんに交易を行っていたようすが描かれている。首都は第2代カリフのマンスールが762年に建設を始めたバグダッドで、円形の城壁で囲まれた地域を中心に繁栄した。人口は150万を数え、唐の長安と並ぶ大都市かつ国際都市であった。このバグダッドを中

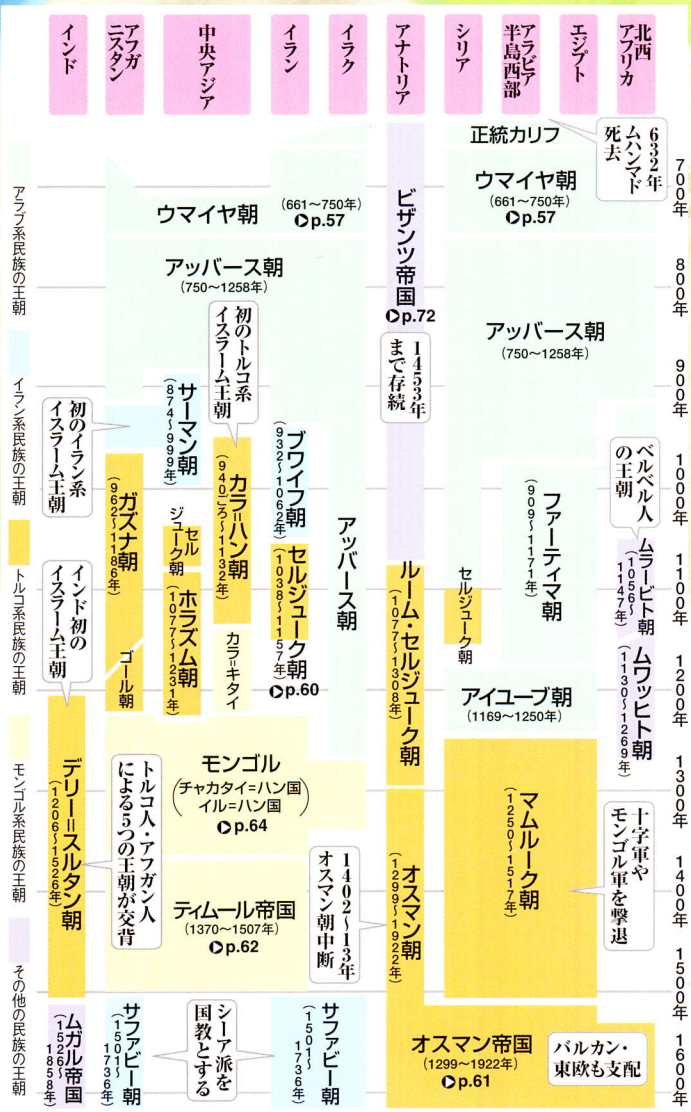
フランク王国 5世紀後半～987年
732年、ピレネー山脈を越えて侵入したイスラーム軍をトゥール・ボワティエ間の戦いで撃退した。

後ウマイヤ朝 756～1031年
イベリア半島を支配。首都コルドバは西方イスラーム世界の中心として繁栄。ここで多くのアラビア語文献がラテン語に翻訳され、中世ヨーロッパの文化に大きな影響を与える。

ビザンツ帝国 395～1453年
イスラーム世界と最前線で対峙するキリスト教国だったが、じわじわとイスラーム勢力に侵食されつつあった。

イドリース朝 789～926年
第4代正統カリフのアリーの子孫がアッバース朝への反乱に失敗した後、モロッコに逃れ、ベルベル人の支持を得て建国。

イスラーム世界の国家の変遷(7世紀～16世紀)



ファーティマ朝 909～1171年
イスマエーイル派(シーア派の一派)の王朝。アッバース朝に対抗し、ムハンマドの娘ファーティマの子孫と称するカリフを立ててチュニジアに建国。エジプト・シリアを征服して首都カイロを建設した。

心にして、帝国全土へ通じる交通路が整備され、広大な帝国を統治するための情報通信網としても活用された。

多くの民族と文化が融合した世界帝国

イスラームの理念に則った統治を行ったアッバース朝は、アラブ人以外の民族も官僚や軍人として積極的に登用した。のちにイスラーム世界の覇者となるトルコ人がマムルーク(軍事奴隷)として活躍しはじめたのも、この時代である。

また、アッバース朝では国際商業の発展を背景に、数学をはじめとする科学が発達し、その水準は同時代のヨーロッパをはるかに上回っていた。